

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101368		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	サンビレッジ大垣 グループホーム さくら・さくら		
所在地	岐阜県大垣市北方町5丁目35番地		
自己評価作成日	平成25年8月25日	評価結果市町村受理日	平成25年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172101368-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172101368-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの強みや個性、生活習慣を大切にして、その人らしい生活ができるよう、ケアに力を入れている。併設しているサテライト特養、デイサービスへも、自由に行き来ができる為、一緒にレクリエーションに参加したり活動をすることで、社会性の維持に努めている。グループホーム内でも、場面の使い分けや、利用者同士の相性に留意し、安心して過ごせる様に配慮をしている。暮らしの中で利用者、職員、ボランティアと共に作業をし、喜びや達成感などを一緒に感じられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を含めた施設の計画する行事は、ボランティアの協力を得て、さくら祭り・バーベキュー交流会・餅つき大会等、地域に定着したもとなり、地域福祉の拠点にもなっている。地域密着型特養・認知症対応型通所介護・短期入所施設を同一建物内で併設し、利用者も自由に建物内を行き来することで、複数の職員で一人の利用者に関わり、手厚く日々の介護に当たっている。職員が自己啓発しやすい仕組みができており、毎年度目標を立てて自己評価し、向上につながる指導が行き渡り、職員全体の質の向上につながっている。管理者は職員と一緒に考え、利用者と共に生活する中で介護の実践を積み上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にした中長期計画を策定し、年間目標を職員で共有し取り組んでいる。認知症拠点として、人材育成やインフォーマルサービス、医療との連携を今後の課題として取り組んでいきたい。	法人の運営方針の下に事業所としての理念をつくり、日々の介護で確認しながら実践している。毎日の申し送り時や会議で、全職員が理念に沿った介護ができているか、振り返り理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多種多様なボランティアとの交流や地域の学校の行事に参加している。つつみへ散歩に行きティータイムとしても利用している。利用者が在宅生活していた頃からの行きつけの美容院や整体にも継続して通っている。	地域と関わりながら生活できるように、様々な機会に情報を発信している。事業計画や行事を地域に回覧板で知らせ、地域住民に参加を呼びかけ、つながりが広まり幼児から大学生・成人を通して、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域住民向けに大垣通信の配布や健康教室を開催し、認知症予防や介護保険に関する内容を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、地域住民、家族、市役所、協力医療機関からの出席もある。他愛もない話から、施設向上のための意見も頂いている	会議に介護系大学講師や高齢者の理解を広める団体役員等からの参加を得て、幅広い分野から意見を聞いている。利用者の自立につながることや生活の向上になる意見を検討し取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所から届く、福祉に関する情報に目を通し情報を収集している。運営推進会議にも参加の依頼をして、実績や施設の取り組みを報告している	利用者に関わる高齢・介護分野には、事業所から出向き報告や相談をしている。福祉分野にとどまらず、農政部や環境部とも連携し、幼児や小学生との触れ合い事業を受託し、良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、研修や会議、勉強会で学ぶことができる。ケアの中で言葉や行動で拘束している場面はないかを振り返り、常に自分に置き換えて携わっている。	言葉遣いを含めた身体拘束について、職員全員が研修で確認し理解をしている。事業所は2階であるが、エレベーターや階段も自由に行き来ができ、利用者が屋外に出た時は、階下の職員とも連携し一緒に付き添う支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について新人研修や会議で学ぶことができる。常に自分自身に置き換えてコミュニケーションを図り、ケアに携わっている。		

グループホームさくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一人が成年後見制度を利用している。スタッフ全員が把握できていない状況であるため、家族から相談があった際に、話が出来るように知識を身に付けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて説明し、家族が不安に思うところの話を聴き、質問等は家族の都合に合わせて時間を取り、応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が施設に足を運んでもらえるよう、大掃除の時に茶話会を開催し、利用者・家族同士が交流する機会を設けている。	家族から意見が言いやすい雰囲気作り心がけ、面会時等は職員から挨拶し、気安く話が出来るとある関係にある。家族アンケートで出た意見や面会時に家族からの意見は、その都度職員で検討し、取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	PP会議、Hの会等で職員の意見や考えを言い合える会があり、様々な職員とも話しやすい環境ができています。部門内、部署内でも自分の意見が出せ、それらを皆で考えケアや業務に繋げることが出来ています。	法人内で誰でも自由に参加できる集まりや事業所の月1回の会議で職員が自由に意見を出している。職員から出た意見は集まりに参加した法人側から提案したり、事業所内で検討したりして取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを年度末に記入し、5月に目標面接、12月に振り返り面接を実施している。ひとりひとりが課題としている事や目標を明確にする事で、仕事へのやりがいを持つように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、各種委員会があり、誰でも参加が可能である。職員勉強会等、外部講師を招いての勉強会も多い。スタッフアセスメントも行い、ひとりひとりに合わせた研修や育成を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、市内のGH・小規模多機能事業所のケアマネが集まり、情報交換をする機会がある。自事業所の取り組みや、悩みを話し合える場である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の告知をされた後、どのように生活していくか、本人の思いを聴いている。本人が不安に思う部分が解消でき、安心して暮らしていけるように、家族、専門職でオリエンテーションを行いサポートしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の思いや不安な部分を聴きながら、入所の準備を一緒に行っている。お互いに情報を交換しながら、家族も安心してサービスが利用できるようにサポートしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には併設しているデイ、短期利用サービスを利用して、本人にとって馴染みの関係を構築し、安心して過ごせる環境であることや、本人が納得したうえでGHで暮らしていけるようサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のやりたい事、出来る事に着目し、強みを活かした活動などを日常に取り入れている。共に生活している職員の悩みを聞いてもらい、人生の先輩としてのアドバイスをもらうことができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、訪問時、過ごしやすい環境を整えている。日頃の様子や利用者からの感謝の言葉を家族に伝え、良い関係が続く様、支援している。家族へ行事の参加を促し、一緒に楽しめる環境作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、馴染みのある美容院や整体、かかりつけ医との関係が継続できるように声を掛けている。今後も、外出・外泊は家族の協力も得て進めていきたい。	家族との会話の希望があれば、電話を取り次ぎ関係が途切れないよう支援している。同一敷地内のコーヒースタイルで知人と一時を過ごしたり、馴染みの喫茶店に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの相性や強みを活かし日々の暮らしを支援している。互いで支え合い、意見を出し合い、選択できる様にサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他界後、物故者慰霊祭を通して、その方の人生を共に振り返り、家族の思いを聴く機会を設けている。退苑者家族にも、中川さくら祭り等の行事案内等を配布し、関係が切れないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動から把握に努め、ケアプラン立案時に、本人と家族に希望や要望を聞き、取り入れている。	利用者に合わせてわかりやすい言葉かけをし、選択肢を工夫して利用者が答えやすくしている。これまでの生活歴からヒントを得て、思いを聞き出すようにしている。結果を記録して日々の介護に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の環境、生活習慣、家族からの情報から、本人の強みを活かした生活が遅れるようサポートしている。馴染みの家具を使用し、本人にとって過ごしやすい環境に近づけるよう、家族と本人と一緒に考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方を支援し、起床、食事、余暇活動、休養、入浴、就寝等、個別に対応している。日頃から、“いつもと違う”という変化に気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に於いて、課題やケアを検討している。必要に応じ、医師、看護師、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士の参加の元に開催し家族、本人の意見で作成している。	利用者の希望や家族の意見を聞いて、計画を作成している。3ヶ月に1回の評価は、全職員で確認し、必要に応じて専門職の意見を取り入れている。身体状況の変化時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア、気づきや工夫はパソコンに入力し、情報を共有している。出勤前に情報収集し業務に入っている。部署会議でも、見直しやアイデアを出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅生活が継続出来る様、短期利用を行っている。入居者や地域住民、家族等、誰でも参加できる健康教室の開催。キッズセミナーを企画し今後の福祉の担い手を育てるために取り組んでいる。		

グループホームさくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の知人との交流や、つつみで行われるコーヒースロンやボランティアの訪問で地域住民と関われるよう支援している。地域の小学校、中学校と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に添って、3名が在宅時からのホームDrを利用し、家族と通院して受診を継続している。	入居前からのかかりつけ医の受診は、家族に協力を得ている。受診時には、看護師が家族に利用者の現状をメモや電話で知らせ、受診後は結果を受診記録に記載し、協力医・法人の医師にも伝え、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回は看護師によるバイタルチェックを実施している。いつもと違うという変化や訴え、日々の状態は朝礼時や随時申し送り、看護師が確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報を提供して、よりスムーズな医療が受けられるように対応している。入院中は看護師、介護職員が訪問し、早期退院への計画を準備している。受診、往診時は、日頃の様子を申し送り、アドバイスや対応を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、ターミナルに向けた方針について、入所の段階で家族と話し合い文書化してある。家族の、その時その時の迷いや不安、悩みに対応し、同じ思いでケアを行っている。	開設以来数例の看取りとエンゼルケアを行っている。入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し、同意書ももらっている。状態の変化に応じて、家族を含めて検討し、サービスの内容を見直し、利用者と家族の思いに合わせて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応のマニュアルを会議で確認し合い、事例を用いてディスカッションやロールプレイで学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者、職員、家族、地域、消防署員と一緒に防災訓練を年に2回実施している。定期的訓練の他に、スタッフ個々が緊急時に対応できるか、不安に思う部分を全体で検討し、それらに添った訓練を実施している。	消防署の指導を得て、定期的な防災訓練や火災訓練を実施している。防災システム勉強会で夜間の対応について不安となる意見もあり、これを取り上げて次の訓練計画につなげている。地域住民に参加を呼びかけているが自治会長だけの参加に留まっている。	避難訓練時に地域住民の参加が得られるように、様々な方法を提案し、協力が得られる体制づくりを構築されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関わる時に、挨拶や目線を合わせる、依頼形の言葉使い、声の大きさやトーン等、ひとりひとりに合わせた声掛けに気を付けている。	利用者との挨拶や声掛けには、その人に合わせた対応をするよう心掛けている。トイレ誘導時には、さりげない声かけをし、誇りを傷つけないよう注意している。個人情報となる資料は他人の目につきにくい棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が話せるように、本人に分かり易い言葉で伝えるように心掛けている。何かを決める時には、選択肢をいくつか設けたり、物を見せたりしながら自己決定できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を継続できるように、苑内、外を自由に散歩したり、趣味である卓球をスタッフや他利用者で行えるようサポートしている。参加したいレクがある利用者には継続して参加できるよう声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服、髪型等、在宅生活の継続ができるようにサポートしている。洋服や履き物の汚れに配慮し、身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階から一緒に考え準備をする。できる事ややりたい事を聴きながら、食事の楽しみを支援している。片付けも利用者同士で行える様に見守りと声掛けを行っている。	職員は利用者の好みを聞いて、一緒にメニューを決め買い物に行っている。調理・盛りつけ・片づけを利用者と一緒に行い、会話をしながら食事の支援をしている。使い慣れた箸・茶碗・湯のみを使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分が摂れるように準備している。水分量が少ない方にはこまめに声を掛け、摂取方法、工夫の検討をしている。家族にも協力を得て、本人の飲めるもの、食べれる物を持参してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや舌磨き、うがいをケアプランに取り入れて対応している。なるべく自立できる様な声掛けをして、磨き残しがある場合は、介入している。		

グループホームさくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さず、さりげなくトイレ誘導できるように、声の掛け方や声の大きさに配慮している。サポートが必要な所を見極めて、羞恥心に配慮した介入を心掛けている。	排泄チェック表や水分摂取量をもとに、タイミングを見計らってトイレ誘導している。身体状況に合わせ、ポータブルトイレを使用したり、夜間のみパッド使用したりして、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に冷たい牛乳の提供や、朝食のヨーグルト、麦御飯を提供している。動く機会を設け、排便時は肛門周辺のマッサージで自然排便を促している。食物繊維を含む食品を取り入れたり、バランスにも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に添って入浴し、外出や外泊の日は別日に対応している。身体の状態に合わせて機械浴を使用することで、安心、安全に入浴できるよう心掛けている。	利用者の身体状況に合わせて、個浴・機械浴等で入浴している。希望により入浴順・日にち・時間帯を選択できるようにしている。入浴剤も希望に合わせて使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の気分や状態で、ベッドやソファでの休養を取り入れている。夜間は、一人の時間やテレビ鑑賞、仲間との団欒等、個々の時間を過ごすことで、リラックスし安心した眠りにつけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に把握して支援している。薬が変更した時はアセスメントを行い、その評価を家族や医師に伝え、利用者が心身良好に過ごせるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの強みを活かして、できる事ややりたい事の支援をしている。日々楽しみが持て、時には一人の空間でゆったり過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外出、自宅の行事の参加は家族の協力の元に行っている。四季を感じられるような行事、ドライブに出掛け、五感で感じられる支援をしている。行きたい所、行ってみたい所を利用者と一緒に決めている。	週2回程の買い物、天気の良い日の散歩に加え、施設内にあるコーヒーサロンにもよく出かけている。行ってみたいところを利用者に問いかけて、家族やボランティアの協力を得て、希望に沿うよう支援している。	

グループホームさくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理状況を家族からも情報を得て、一緒に買い物に行き、アセスメントを行う。施設に入ったからお金を使えないわけではなく、欲しい物を決め自分で支払うという行為を継続出来る様サポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば使用できる様にしている。家族からの誕生カード、年賀状、母の日の贈り物が届き、家族との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食卓の採光は、カーテンやダウン灯で対応している。玄関、空間に季節の花や人形、掛け物で季節や安心が感じられる。癒しにもなるようなアロマも使用している。	共用空間が広く、音楽や穏やかな採光を工夫してゆったりとくつろげるようにしている。家族の来訪時には落ち着いて話せる雰囲気心がけている。和室スペースには座布団や加湿器を置き、食堂や居間には季節の花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、家族や来客者が、リビングやプライマリー空間、居室、施設内、つつみといった場所で自由に気軽に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の継続が出来る様に、家族へ説明し、使い慣れた家具、寝具、思い出の物を持ち込んでもらっている。自分の部屋、自分の物品と確認でき、安心して生活できる様にサポートしている。	利用者と家族で相談しながら、自分らしい居室としているが、職員が物の配置等について働きかけている。入口の棚には愛用の品を並べ、居室には馴染みの家具やアルバム等を持ち込んで、落ち着いて暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、入り口の棚には持参した馴染みの物や作った作品を飾り、自立できるようにサポートしている。 階段を利用し、筋力低下予防に繋げている。		